



日本のまんなか
水と緑といで湯の街渋川市

令和7年3月第1回市長定例記者会見

- ・日時 令和7年3月4日(火)
午後1時
- ・場所 市役所本庁舎記者会見室

- 1 こんにゃくのPRイベント「しぶかわ★しらたき大作戦 i n 市役所本庁舎」が開催されます(資料1)
- 2 ぐんま愛フェスタ2024で渋川市の工芸品「創作こけし」をPRします(資料2)
- 3 多発する犯罪に備えるため防犯機器の設置を支援する事業を開始します(資料3)
- 4 高齢ドライバーの安全運転を目的に
自家用車の誤発進防止装置の設置費用の一部を補助します(資料4)
- 5 3月26日の「てんかん啓発の日パープルデー」の啓発に
渋川医療センターと協力して取り組みます(資料5)
- 6 令和6年度第4回市政モニターアンケートの実施結果をお知らせします(資料6)

○次回開催予定

市議会3月定例会の状況により開催させていただきます。
日程は決まり次第ご案内いたします。

市長の主な週間日程

月 日	時間	件 名	場 所	所 管
3月3日(月)	10:00	総務市民常任委員会	市役所本庁舎	議会事務局
3月4日(火)	13:00	市長定例記者会見	市役所本庁舎	広報室
	18:30	令和6年度第4回地域医療支援病院運営委員会	渋川医療センター	健康増進課
3月5日(水)	10:00	予算常任委員会	市役所本庁舎	議会事務局
3月6日(木)	10:00	3月市議会定例会	議場	議会事務局
3月7日(金)	10:00	3月市議会定例会	議場	議会事務局
3月8日(土)	10:00	NPO法人渋川広域ものづくり協議会設立25周年感謝の集い	市民会館小ホール	市民協働推進課
3月9日(日)	13:00	梅澤昭夫氏瑞宝単光章受章祝賀会	伊香保温泉ひびき野	秘書室
3月10日(月)	10:00	3月市議会定例会	議場	議会事務局

市長の主な週間日程

月 日	時間	件 名	場 所	所 管
3月10日(月)	10:00	3月市議会定例会	議場	議会事務局
3月11日(火)	10:00	3月市議会定例会	議場	議会事務局
	18:00	経済団体情報交換会	ホワイトパーク	産業政策課
3月12日(水)	10:00	3月市議会定例会	議場	議会事務局
3月13日(木)	9:15	中学校卒業式	古巻中学校	学校教育課
3月14日(金)	10:00	3月市議会定例会	議場	議会事務局
3月15日(土)	14:00	「衣 真一郎展-古典とピラミッド-」レセプション	渋川市美術館・桑原巨 守彫刻美術館	美術館
	16:00	渋川ボーイズ第19期生卒団式	渋川ボーイズホームグラウンド	スポーツ課
3月16日(日)				
3月17日(月)	10:00	予算常任委員会	市役所本庁舎	議会事務局

市長の主な週間日程

月 日	時間	件 名	場 所	所 管
3月17日(月)	10:00	予算常任委員会	市役所本庁舎	議会事務局
3月18日(火)	10:00	予算常任委員会	市役所本庁舎	議会事務局
3月19日(水)	10:00	予算常任委員会	市役所本庁舎	議会事務局
3月20日(木)				
3月21日(金)	10:00	予算常任委員会	市役所本庁舎	議会事務局
3月22日(土)	11:00	アミューズマーケット in SHIBUKAWA～それぞれの卒業～	渋川駅前広場	政策戦略課
3月23日(日)	9:00	第29回渋川市武道フェスティバル	宮田商会武道館渋川 市役所第二庁舎、渋川 公民館	スポーツ課
	10:00	しぶかわ高校合同説明会		政策戦略課
	13:00	消防ポンプ車引渡し式	市役所北庁舎前駐車場	危機管理室
3月24日(月)	10:00	小学校卒業式	長尾小学校	学校教育課

資料1

こんにゃくのPRイベント 「しぶかわ★しらたき大作戦in市役所本庁舎」が 開催されます

国内におけるこんにゃくの消費が低迷し、こんにゃく粉の在庫が増加していることから、取引価格が下落することになり、こんにゃく農家の経営は厳しさを増しています。

そこで、渋川市は、渋川地区こんにゃく研究会が3月13日(木)に渋川市役所本庁舎で開催する、「しぶかわ★しらたき大作戦in市役所本庁舎」に協力し、こんにゃく生産者をバックアップします。

1 概要

こんにゃくの取引価格の下落や資材価格の高騰により、こんにゃく生産者にとって厳しい経営状況が続いています。その中で、渋川地区こんにゃく研究会は、こんにゃく精粉割合が比較的高い「しらたき」に着目し、新たな食べ方を提案しています。

渋川市産のこんにゃくは、作付面積で全国シェアの約15%程度を占めている重要な特産品となっています。そのため渋川市は、こんにゃくの消費を促して、生産者をバックアップする手段を検討するため、政策戦略会議を開催しました。会議には、庁内から農政、企画、広報の担当が参加したほか、渋川地区こんにゃく研究会と群馬県中部農業事務所に同席していただき、同研究会が開催する、こんにゃく製品の消費拡大に向けたPRイベントに対して、会場提供や事業費補助等で協力する方針を決定しました。

2 日 時 令和7年3月13日(木) 午前10時～午後2時
※試食品がなくなり次第終了

3 場 所 渋川市役所本庁舎 市民ホール

4 内 容

- (1) しらたきサラダの試食 (100セット×3種類 (青じそ・ごま・シーザー))
- (2) こんにゃくPR用の印刷物の掲示
- (3) こんにゃくPR用動画の放映
- (4) レシピ・ちらし等の配布
- (5) アンケートの実施

5 主 催 渋川地区こんにゃく研究会

6 協 力 渋川市、渋川広域農業活性化推進協議会

7 記者会見出席者

渋川地区こんにゃく研究会 会長 後藤 功也 (ごとう かつなり) 氏

参考

1 渋川地区こんにやく研究会とは

こんにやくについての効率的な技術体系を確立し、特産地形成の組織的な実践活動と交流に関する研究活動を円滑に推進させるとともに会員相互の親睦・連携を強めることを目的とした研究会です。

(事務局：群馬県中部農業事務所渋川地区農業指導センター)

2 渋川広域農業活性化推進協議会とは

渋川市・吉岡町・榛東村の地域農業の振興、観光との連携等について、関係市町村及び関係機関、団体等が一体となって、その具体化と着実な推進を図ることを目的とした協議会です。

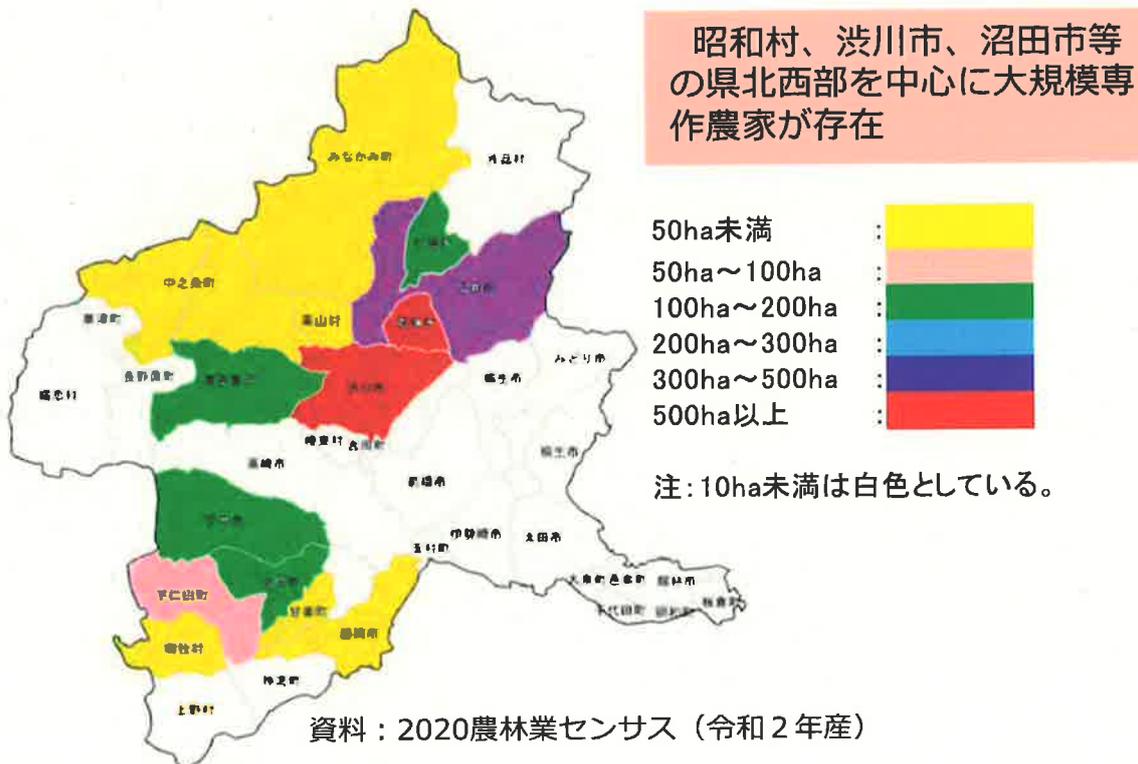
(事務局：渋川市農政課及び群馬県中部農業事務所渋川地区農業指導センター)

3 国内のこんにやく栽培面積上位5県の生産状況

	全国	群馬県	栃木県	山梨県	茨城県	長野県
栽培面積 (ha)	3,230	2,990	34	25	19	10
	100%	92.6%	1.1%	0.8%	0.6%	0.3%
収穫量 (t)	50,900	48,500	403	109	320	58
	100%	95.3%	0.8%	0.2%	0.6%	0.1%
単収 (kg/10a)	2,610	2,680	2,119	846	2,225	668

資料：全国値及び群馬県は 農林水産省「作物統計」、その他の県は (一財)日本こんにやく協会「こんにやくに関する資料」

4 群馬県内のこんにやくいも生産地域



5 群馬県のこんにゃくいも生産の状況

○群馬県内のこんにゃくいもの生産農家数、栽培面積と収穫量

群馬県内	H25	R元	R2	R3	R4	R5	比較 R5/H25
栽培面積 (ha)	3,430	3,250	3,210	3,130	3,040	2,990	87%
収穫量 (t)	60,100	55,300	50,200	51,200	49,200	48,500	81%
生産農家数 (戸)	1,490	983	917	831	785	719	48%
5ha以上 (戸)	122	180	177	175	173	166	136%
	8.2%	18.3%	19.3%	21.1%	22.0%	23.1%	282%

資料：栽培面積・収穫量は、農林水産省「作物統計」
生産農家数は（一財）日本こんにゃく協会「こんにゃくに関する資料」

6 渋川市のこんにゃく作付面積の推移

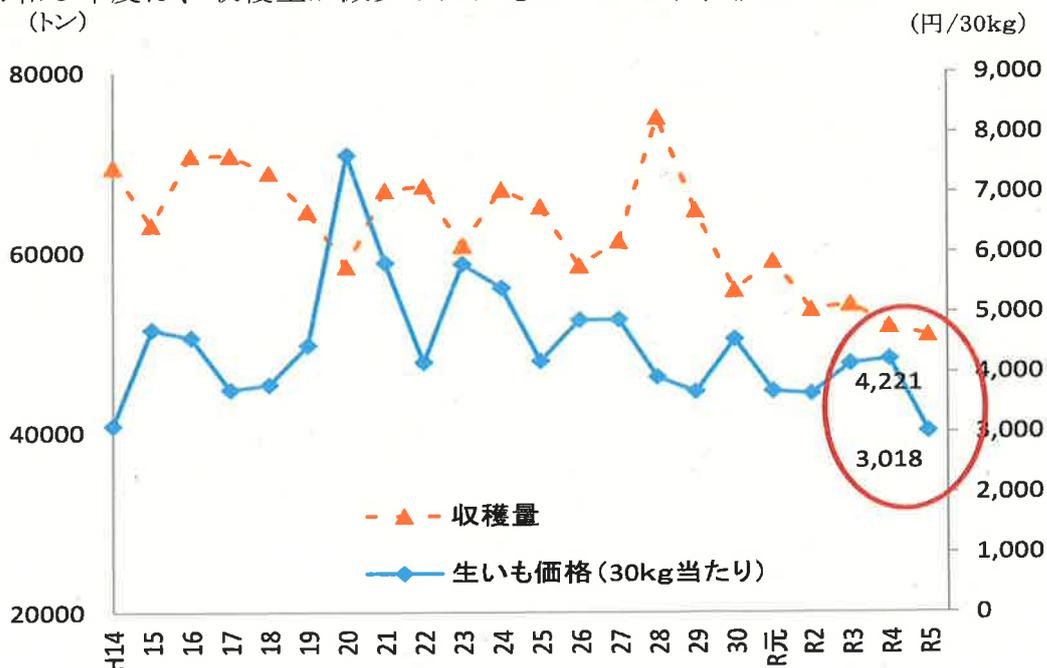
年度	令和2	令和3	令和4	令和5	令和6
面積	512.1ha	475.6ha	470.7ha	587.6ha	548.4ha
県内割合	16.0%	15.2%	15.5%	19.7%	17.1%

7 渋川市のこんにゃく生産農家数の推移

年度	令和3	令和4	令和5	令和6
戸数	227	219	184	175

8 こんにゃくいもの収穫量と生いも価格の推移

令和5年度は、収穫量が減少したにもかかわらず、価格が急落した。



資料：収穫量は農林水産省「作物統計」(当該年産)、生いも価格は「農業物価統計」(当該年の1月から12月まで)。R4産は概数値

9 国産精粉と輸入精粉の価格の推移



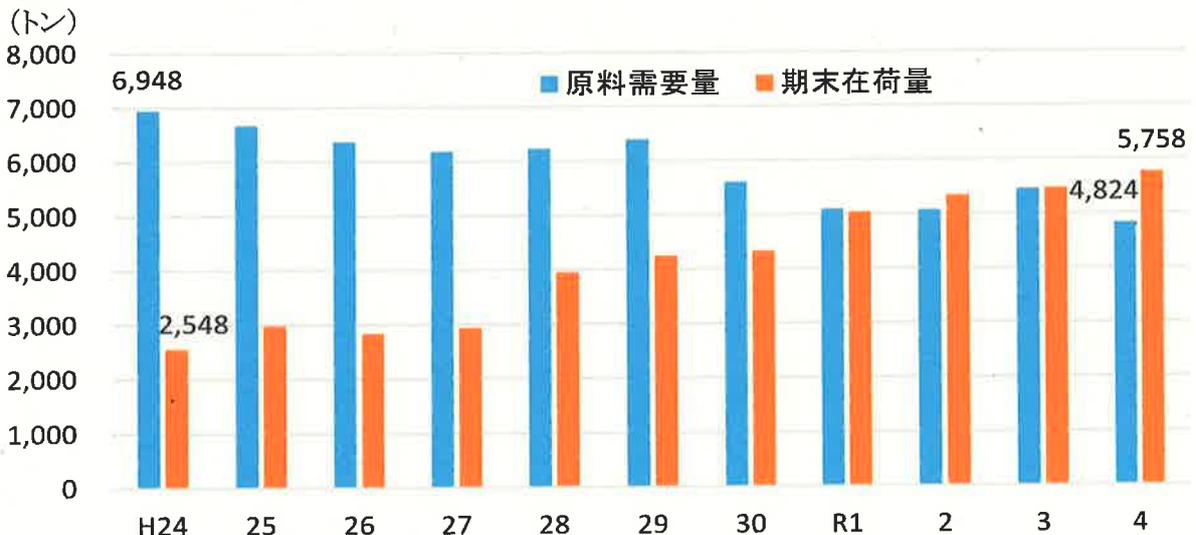
資料: 全国蒟蒻原料協同組合、財務省「貿易統計」(年は当該年の11月から翌10月まで)

注1: 国産こんにゃくいもの価格は、全国蒟蒻原料組合会員による売り渡し価格の平均値(精粉)である。

注2: 輸入こんにゃくいものは、CIF価格である。

10 こんにゃくいもの原料需要量・期末在荷量の推移 (精粉換算)

近年、期末在庫量が増加し、令和2年度以降は年間需要量を上回って積み上がっている。



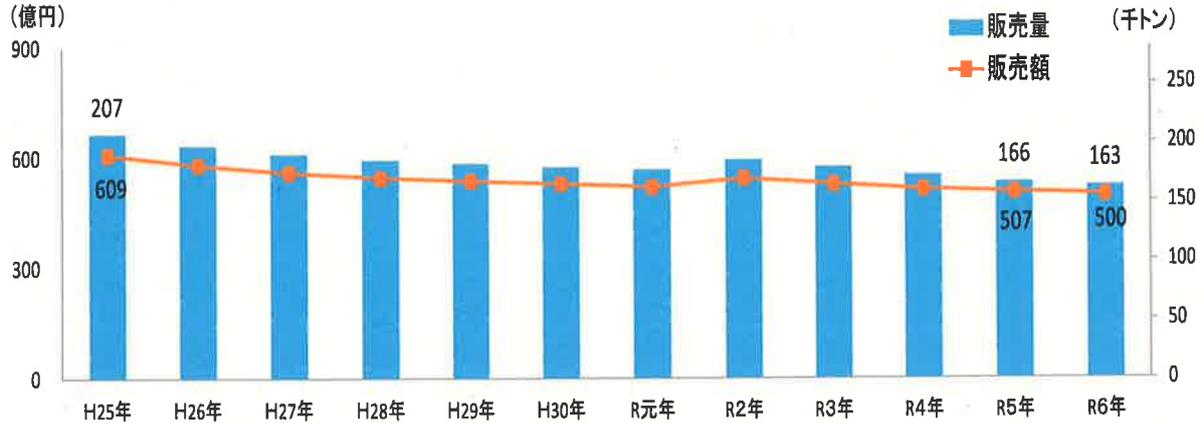
資料: (一財)日本こんにゃく協会「こんにゃくに関する資料」

注: 当該年の11月から翌年10月まで

原料需要量 = 原料供給量(国内生産量 + 輸入量) + 在庫増加量(全農、原料業者、製造業者からの報告値から推計)
 × 買入量使用率(製造業者のサンプル調査値から推計)
 期末在庫量 = 供給量合計(期首在庫量 + 国内生産量 + 輸入量) - 需要量

11 こんにゃく製品市場の推移

こんにゃく製品の販売額は、市販用が6割、業務用（量販店やコンビニエンスストアの惣菜用、外食用等）が約4割を占めている。全体の販売量・額は、近年減少傾向にある。



資料：(株)富士経済「2024年 食品マーケティング便覧」(注：令和5年は見込、令和6年は予測)

■ 問い合わせ先

産業観光部 部長 金井 裕昭 (内線4899)
 担当：農政課 (電話0279-22-2593)
 課長 山本 泰浩 (内線4971)
 振興係長 川田 美穂子 (内線4972)

ぐんま愛フェスタ2024で渋川市の工芸品「創作こけし」をPRします

上毛新聞社が主催する、「ぐんま愛フェスタ2024」が3月16日(日)に群馬県庁で開催されます。

渋川市は、PRブースに出展し、創作こけしの周知や、PR動画の紹介等を行い渋川市の魅力を発信します。

1 概要

上毛新聞社は、群馬県や県内企業等と協力し、地域の魅力を発信する「地域の力応援キャンペーン」を実施し、紙面の「ぐんま愛」コーナーを通じて自治体や企業の取り組みを紹介しています。今年度は、このキャンペーンにおいて、群馬で活躍する企業団体と自治体、県民を「つなぐ」イベントを初めて開催することになりました。

渋川市は、このキャンペーンの趣旨に賛同し、「現代風に再構築した創作こけしの紹介」について提案したところ、企画が採用されブース出展することになりました。この機会にPR動画の紹介等も行い市の魅力を発信します。

2 日 時 令和7年3月16日(日) 午前10時～午後4時

3 会 場 群馬県庁1階 県民ホール及び県民広場

4 出展内容

(1) 創作こけしの周知

渋川市の伝統産業である創作こけしの周知を図るために地域おこし協力隊OBの大野雄哉さんと阪口壮汰さんの作品展示及びパネル展示等を行います。

(2) 作家の紹介

①大野雄哉(おおの ゆうや)さん

令和元年9月2日から令和6年3月31日までの期間、渋川市の地域おこし協力隊として活動し、現在は、「ログアンドトイズ」として渋川市内で活動中

②阪口壮汰(さかぐち そうた)さん

令和2年4月1日から令和5年3月31日までの期間、渋川市の地域おこし協力隊として活動し、現在は、「壮々房」として渋川市内で活動中

※地域おこし協力隊とは、都市地域から過疎地域等の条件不利地域に住民票を異動し、地域おこし支援や、農林水産業への従事、住民支援などの「地域協力活動」を行いながら、その地域への定住・定着を図る取り組みです。隊員は、各自治体の委嘱を受け、概ね1年以上3年以下の任期で活動します。

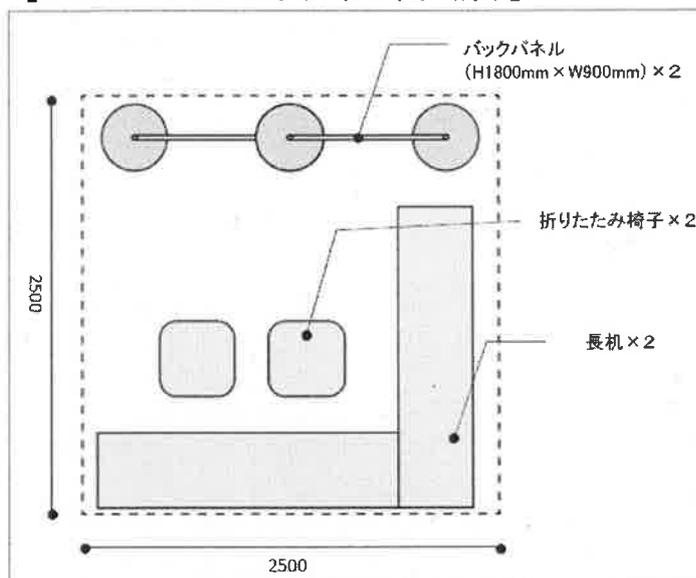
(3) 渋川市の魅力の発信

渋川市のPR動画の紹介や、観光パンフレット等により、渋川市の魅力を広く発信します。

- ・渋川市PR動画の二次元コードが掲載されたチラシの配布
- ・渋川市観光パンフレット等の配布

5 記者会見出席者 大野雄哉さん(渋川市地域おこし協力隊OB)

【PRブースのレイアウト図（案）】



- ①長机上に地域おこし協力隊OBの作品を展示（展示幅300cm程度）
- ②長机上に渋川市の観光パンフレット等を設置
- ③ブース後方のバックパネルに創作こけしについてのPR情報を掲示

参考

1 ぐんま愛フェスタ2024イベント内容

- (1) ステージイベント
キッズチアダンス、トークショー など
- (2) PRブース（22ブース出展）
「ぐんま愛」協賛企業、団体、自治体の取組やイベント情報を紹介
- (3) ワークショップ・パネル展示
オリジナルTシャツづくり、ぐんま愛掲載紙面のパネル展示
- (4) 47マルシェ
県内のおいしいものが大集合

2 創作こけしとは

昭和20年代に群馬県で誕生し、自由自在な造形を特徴としています。渋川市は、創作こけし産地の中心地の一つとして、数多くの創作こけし作家が活躍しています。

■問い合わせ先

〈創作こけしに関すること〉

産業観光部 部長 金井 裕昭（内線4899）
 担当：産業政策課（電話0279-22-2596）
 課長 山田 量俊（内線4890）
 商工・産業振興係長 堀田 章恵（内線4895）

〈魅力発信に関すること〉

総合戦略部 部長 鴻田 吉史（内線2410）
 担当：広報室（電話0279-22-2396）
 室長 熊迫 徳三（内線2419）
 シティブランド発信係長 小杉 早苗（内線2416）

資料3

多発する犯罪に備えるため 防犯機器の設置を支援する事業を開始します

渋川市は、令和7年度の新規事業として、犯罪を未然に防止し、地域の安全安心を推進するため、防犯機器の購入・設置費用の一部を補助します。

1 概要

高齢者を狙った訪問詐欺や重要犯罪が増加していることから、住宅及びその周辺において発生する可能性のある犯罪を未然に防止し、地域の安全安心を推進するため、防犯機器の購入・設置費用を補助する「住まいの防犯対策支援事業」を実施します。

2 対象者 渋川市に住民登録のある65歳以上の人又はその同居の家族

3 対象機器 防犯カメラ、人感センサーライト、カメラ付きインターホン

4 補助対象経費 対象機器の購入・設置に要する費用

5 補助金額 補助対象経費の2分の1の額、最大2万円

6 予算額 100万円（令和7年度一般会計予算案に計上しています）

7 申請受付 令和7年5月（予定）

8 周知方法

市ホームページや「広報しぶかわ」への掲載などにより周知します。

9 その他

県内では、桐生市が令和6年度から、安中市が令和5年度から防犯機器購入補助事業を実施しています。

参考

1 訪問販売・訪問購入相談件数（渋川市消費生活センター）

年度	訪問販売	訪問購入
令和6年度 (1月末現在)	73件	6件
令和5年度	103件	21件
令和4年度	75件	8件

2 刑法犯認知件数（群馬県公表）

年	件数
令和5年	503件
令和4年	246件
令和3年	235件

■問い合わせ先

情報防災部 部長 萩原 義人（内線2105）

担当：危機管理室（電話0279-22-2130）

室長 佐藤 昭代（内線2180）

安全安心係長 樺澤 華一（内線1144）

資料4

高齢ドライバーの安全運転を目的に 自家用車の誤発進防止装置の設置費用の一部を補助します

渋川市は、令和7年度の新規事業として、高齢者の安全運転を支援するため、自動車のブレーキとアクセルの踏み間違いによる急加速や急発進を抑制する装置（誤発進防止装置）の設置費用の一部を補助します。

1 概要

今後も増加が見込まれる高齢ドライバーが安心して運転できるよう、自動車のブレーキとアクセルの踏み間違いによる急発進や急加速を防ぐ装置の設置費用を補助する「自動車誤発進防止装置設置補助事業」を実施します。

2 対象者 渋川市に住民登録のある運転免許を保有する満70歳以上の人

3 補助対象経費

所有する自家用車に、国の性能認定を受けた後付け誤発進防止装置を設置する費用

4 補助金額 補助対象経費の2分の1の額、最大2万円

5 予算額 20万円（令和7年度一般会計予算案に計上しています）

6 申請受付 令和7年5月（予定）

7 周知方法

市ホームページや「広報しぶかわ」への掲載などにより周知します。

8 その他

高齢者を対象とした後付け急発進等抑制装置設置の購入補助は、県内14市町村が実施しています。

参考

群馬県警が公表している「令和6年中の交通事故発生状況」の「全事故と死亡事故の年齢層別構成比較（第1当事者）」によると、全事故に対する構成率（20.5%）・死亡事故に対する構成率（41.3%）ともに、70歳以上が最も高くなっています。

■問い合わせ先

情報防災部 部長 萩原 義人 (内線2105)

担当：危機管理室 (電話0279-22-2130)

室長 佐藤 昭代 (内線2180)

安全安心係長 樺澤 華一 (内線1144)

資料5

3月26日の「てんかん啓発の日パープルデー」の啓発に 渋川医療センターと協力して取り組みます

渋川市は、共生社会の実現に向けた取り組みとして、「てんかん」という病気の理解促進を目的に、3月26日の「てんかん啓発の日パープルデー」に合わせて、国立病院機構渋川医療センターと協力し啓発に取り組みます。

1 「てんかん啓発の日パープルデー」とは

2008（平成20）年に、カナダに住む当時9歳の少女が、病気に対する偏見や誤解に悩み、てんかんについて知ってもらいたいと考えたことをきっかけに、カナダのノバスコシアてんかん協会がその思いを理解し、3月26日を「てんかん啓発の日パープルデー」と制定しました。

「てんかんを持つ人を一人ぼっちにしない」という思いを込めて「紫色のもの」を身に着け、てんかん患者を応援するイベントで、国内においても活動の輪が広がっています。

2 概 要

渋川市は、県のとんかん支援拠点病院として令和3年7月に認定された国立病院機構渋川医療センターと協力し、伊香保温泉石段だんだん広場をシンボルカラーのパープルライトで彩ります。また、渋川医療センターにおいて、てんかんやパープルデーに関する啓発展示を実施します。

3 内 容

(1) パープルライトアップ

実施主体 渋川市

日 時 令和7年3月24日(月)～26日(水)
午後6時～8時

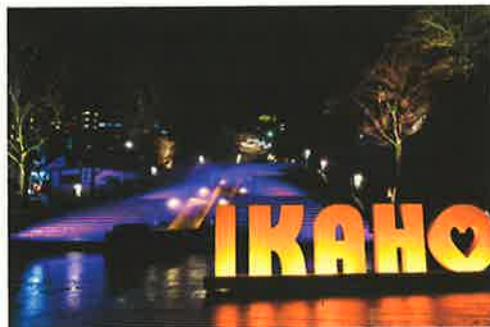
場 所 伊香保温泉石段だんだん広場

(2) てんかん啓発展示

実施主体 渋川医療センター

日 時 令和7年3月24日(月)～28日(金)
午前8時30分～午後5時15分

場 所 国立病院機構渋川医療センター
外来ホール（渋川市白井383番地）



参考

令和6年度の取り組み状況

(1) パープルライトアップ

ア 渋川スカイランドパーク遊園地（観覧車）

期 間 令和6年3月22日～25日 午後6時～9時

イ 伊香保温泉石段だんだん広場

期 間 令和6年3月26日 午後6時～9時

(2) てんかん啓発展

期 間 令和6年3月21日～27日 午前8時30分～午後5時15分

（土・日曜日は除く）

場 所 渋川市役所本庁舎1階 市民ホール

(3) 渋川市職員によるバッジの着用

期 間 令和6年3月21日～27日

内 容 （一社）Purple Day Japanが作成した缶バッジ300個を、渋川医療センターから提供していただき、窓口等の職場に従事する渋川市職員が身に付けて、啓発活動を推進しました。



■問い合わせ先

総合戦略部 部長 鴻田 吉史（内線2410）

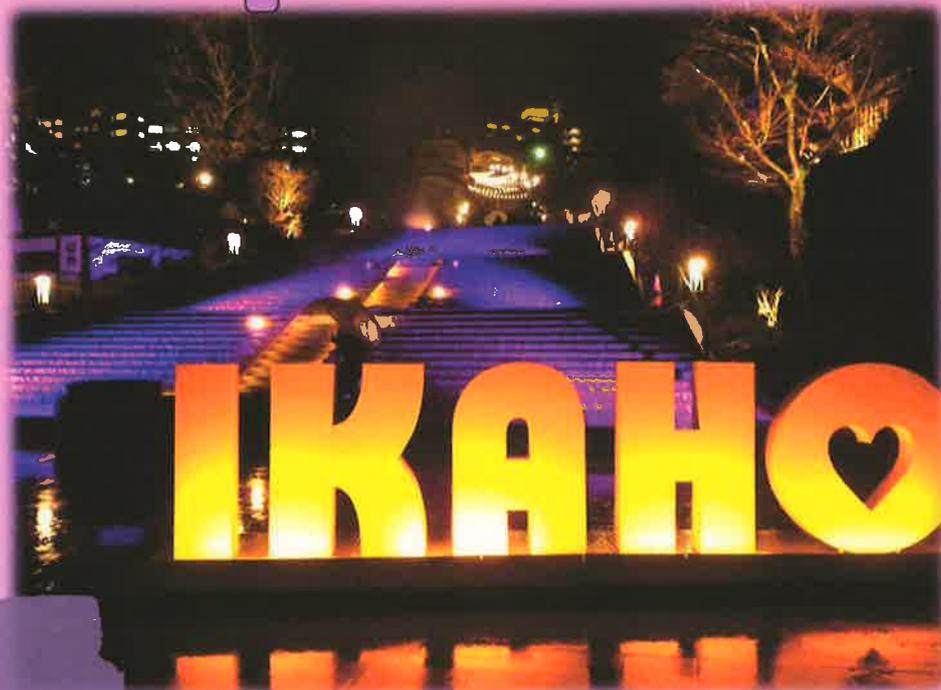
担当：政策戦略課（電話0279-25-8419）

課長 小野 篤史（内線2420）

未来戦略係長 齋藤 大輔（内線2423）

3月26日 てんかん啓発の日

Purple Day



2024.03.26
伊香保の石段にて

Purple Dayとは。。

世界各国で行われているてんかん啓発キャンペーンです。
「てんかんを持つ人をひとりぼっちにしない！」
と応援のメッセージを込めて、紫色のものを
身に着けてみませんか？

掲示期間

・ 渋川医療センター：3月24日（月）～28日（金）

パープルデーライトアップ

・ 伊香保温泉石段だんだん広場：3月24日（月）～26日（水） 午後6時～8時

令和6年度第4回市政モニターアンケートの実施結果をお知らせします

渋川市は、令和5年度に導入した「市政モニター」制度を活用し、44人の市政モニターを対象として、今年度4回目のアンケートを実施しました。38人から回答をいただいたアンケートの集計結果をお知らせします。

このアンケート結果は、各種施策の推進や計画立案などの参考資料として効果的に活用するとともに、市ホームページで公開します。

1 概要

渋川市は、市の政策や計画策定などに対する市民意見を聴取し、各種施策の推進や計画立案などの参考資料として効果的に活用するとともに、市政への市民参加の実現と開かれた市政を推進するため、令和5年度に「渋川市市政モニター」を設置しました。今年度は、市内関係団体からの推薦34人と公募による10人の計44人を市政モニターに登録しています。

今回、令和6年度第4回市政モニターアンケートとして、「第2次渋川市中心市街地活性化プランについて」、「渋川市地域福祉センターについて」をテーマにしてアンケートを実施しました。

このアンケートの結果を報告します。

2 アンケート実施期間 令和7年1月9日～1月31日

3 アンケート実施対象

令和6年度渋川市市政モニター44人(推薦による登録・34人、公募による登録・10人)

4 回答状況 回答者：38人(20～80歳代) ※回答率：86.4%

5 アンケート集計結果(詳細は別紙のとおり)

(1) 第2次渋川市中心市街地活性化プランについて

①結果概要・主な意見

中心市街地の活性化には「市民、商業者、行政が一体となって協働で取り組む事が必要」と考える人が多くいました。学生をターゲットにした地域の整備や他地域での事例を交えた施設設置の提案など、様々な目線からの意見をいただきました。

②今後の対応

今回いただいた意見は、第2次渋川市中心市街地活性化プラン(計画期間：平成31年4月～令和11年3月)の各種関連施策の進捗状況の点検・評価や実施事業の見直しに当たり参考とします。

(2) 渋川市地域福祉センターについて

①結果概要

施設の存在は、比較的多くの人・世代に認知されているものの、施設の利用については、「利用していない」または「将来利用したくない」という意見がありました。また、地域の憩いの場として施設を継続すべきとの意見もありましたが、老朽化を考えると他の施設の利用を薦めることや廃止する代わりに公民館や住民センター等に高齢者の居場所をつくるなどの意見もありました。

②主な意見

- ・日常的に外の空気を吸って他人と会話することが、結果的に健康寿命を延ばして医療費を抑えることにもつながるのではないかと
- ・高齢者だけでなく「市民の憩いの場」としての存在価値を再構築させ継続すべき

③今後の対応

運営方法や利用料の改定など、急務となっている施設のあり方検討の参考とします。

6 その他

今回のアンケート結果を、事業担当課を含む庁内の全所属に共有し、各施策の今後の展開に反映できるよう検討していきます。

参考

1 市政モニター登録者の情報

- (1) 居住地 渋川地区 (17人)、伊香保地区 (7人)、小野上地区 (2人)、子持地区 (7人)、赤城地区 (5人)、北橘地区 (6人)
- (2) 年齢 20歳代 (5人)、30歳代 (9人)、40歳代 (6人)、50歳代 (3人)、60歳代 (9人)、70歳代 (9人)、80歳代 (3人)
- (3) 職業 会社役員、会社員、団体職員、パート、主婦、建設業、神主、旅館業、農家、キャリアカウンセラー、インストラクター、相談支援専門員、土地家屋調査士、施設指導員、自営業、自動車整備・販売業、金属製建具工事業、大学生、無職
- (4) 性別 (推薦による登録者のみ) 男性=22人、女性=12人
- (5) 任期 1年

2 今年度のアンケートの回答状況

- 第1回/実施期間 令和6年6月18日(火)～7月2日(火)
テーマ ・渋川市とハワイ郡との交流について
・市の農林行政の推進について
回答状況 回答者40人・回答率90.9%
- 第2回/実施期間 令和6年9月2日(月)～9月20日(金)
テーマ ・新市誕生20周年について
・市の広聴事業について
・プラスチックの分別収集について
回答状況 回答者37人・回答率84.1%
- 第3回/実施期間 令和6年10月23日(水)～11月14日(木)
テーマ ・10年後の渋川市について
・渋川市議会について
・市の職員の「カスタマーハラスメント対策」について
回答状況 回答者36人・回答率81.8%

■問い合わせ先

総合戦略部 部長 鴻田 吉史 (内線2410)
担当：広報室 (電話0279-22-2182)
室長 熊迫 徳三 (内線2419)
広報広聴係長 武井 香代 (内線2414)

令和6年度 第4回 渋川市市政モニターアンケート結果

渋川市は、市民の皆様から市政等に関する意見や要望をお聞きし、各種施策の推進や計画立案の参考とさせていただくことを目的に市政モニターアンケートを実施しました。

令和6年度 第4回 アンケートの集計結果は次のとおりです。

- 【調査対象】 令和6年度市政モニター44人（公募10人・団体推薦34人）
＜モニターの要件＞
- ・市内に住所を有する18歳以上の人
 - ・公務員や地方公共団体の議員などでない人
 - ・同一世帯に市政モニターに応募しようとする者がいない人
- 【実施期間】 令和7年1月9日（木）～1月31日（金）
- 【実施方法】 アンケートフォームによる（一部、書面（郵送）調査）
- 【実施内容】
1. 「第2次渋川市中心市街地活性化プラン」について（問1～問7）
 2. 渋川市地域福祉センターについて（問8～問14）
- 【回答状況】 アンケート調査回答者：38人（20歳代～80歳代）
回答率：86.4%

参考

＜アンケート回答者の情報＞

- (1) 居住地 渋川地区（17人）、伊香保地区（4人）、小野上地区（2人）、子持地区（6人）、赤城地区（5人）、北橋地区（4人）
- (2) 年 齢 20歳代（4人）、30歳代（8人）、40歳代（4人）、50歳代（2人）、60歳代（9人）、70歳代（8人）、80歳代（3人）

渋川市

（広報室）

令和6年度 第4回
渋川市市政モニターアンケート結果

1. 「第2次渋川市中心市街地活性化プラン」について

市は、中心市街地活性化法にある「公共施設や商業施設などの多様な都市機能が集積した地域であり、衰退傾向にあること」などの要件や市の都市計画事業などとの整合性から、下図の地域を中心市街地に設定しています。この地域が活性化し、周辺地域と連携することで、持続可能な渋川市となることを目指し、対象エリアのまちづくりの目標や基本方針、具体的な実施計画などを掲げたものが「渋川市中心市街地活性化プラン」です。市は、このプランに基づき、各種施策に取り組み、中心市街地の活性化を推進してきました。

現在の計画（第2次渋川市中心市街地活性化プラン）の期間は、平成31年4月～令和11年3月までの10年間としており、今後、社会情勢の変化に対応するため、各種関連施策の進捗状況を点検・評価し、現状に見合った実施事業の見直しを進めます。



問1 あなたがよく買い物に行く場所はどこですか。

- ①中心市街地（渋川市）（1人・2.6%）
- ②中心市街地の大型店（渋川市）（5人・13.2%）
- ③郊外の大型店（渋川市）（23人・60.5%）
- ④コンビニ・その他商店（渋川市）（5人・13.2%）
- ⑤前橋市・高崎市の店舗（2人・5.3%）
- ⑥吉岡町の店舗（4人・10.5%）
- ⑦その他の地域の店舗（1人・2.6%）
- ⑧インターネット（0人）

年齢別回答状況

単位：人

①は人数	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	合計
20歳代(4)	1		2	1					4
30歳代(8)		3	1	2	1	2	1		10
40歳代(4)			4						4
50歳代(2)			2						2
60歳代(9)		2	3	2	1	2			10
70歳代(8)			8						8
80歳代(3)			3						3
合計(38)	1	5	23	5	2	4	1	0	

※30歳代と60歳代で複数回答あり

「③郊外の大型店（渋川市）」は、全ての世代から選択される回答となりました。
 「①中心市街地（渋川市）」、「②中心市街地の大型店（渋川市）」、「③郊外の大型店（渋川市）」、「④コンビニ・その他商店（渋川市）」を選択したのは34人（89.5%）で、ほとんどの人が「よく買い物に行く場所」として「市内のお店」と回答しています。

問2 中心市街地の悪い点は何だと思いますか。

＜簡易抜粋＞

- ・品揃えが少なく、SNS等の情報発信もなく魅力を感じない。
- ・道路が狭くて駐車場も狭い。品揃えや価格でメリットを感じない。店舗が集約されていないため店舗間の移動が面倒。活気がなく購入意欲がわからない。
- ・若い人が入りたくなるようなスポーツジム、ゲームセンターなどが街中にあってもよい。
- ・中心市街地では日常生活に必要な物が買えないので、何でも揃う大型スーパーに行ってしまう。
- ・悪い点ではなく、大型店が少ないので使い勝手という意味では交流人口が少ないのではないかと思う。
- ・駅前に大きい市街地マップが見当たらない。改札からロータリー側の方に市街地マップ(商店中心の)とかあればいいのでは。

問3 上記「問2」の回答内容の改善への意見や、中心市街地がどんな街になったら良いと思うか教えてください。

<簡易抜粋>

- ・車でアクセス出来て駐車場完備の街。若者が行ってみたい、住みたい、働きたい、そんな魅力ある街。
- ・どうしても利便性や品揃え、車での乗り付けやすさ等で郊外店舗に及ばない場合が多いので、無理に張り合わず学生や観光客をターゲットにしたら良いと思います。
- ・「こんな店がある」というわかりやすい案内。市民の特典があればいいのでは。
- ・駅周辺の空き家、所有者不明の物件を解体し新しく駅近くに住宅街を設ける。
- ・子連れでも行きやすいお店（スーパーとドラッグストアが隣同士とか）地上の駐車スペースが広い方が助かる（屋上は大変）。
- ・総合施設のような1箇所で全てが揃うような施設があったほうが良い。
- ・大型店がないことが今となっては強み。個人商店や住民を巻き込むお祭りやイベントの開催や行政整備があると活性化するのは。
- ・さびれた店舗や閉店した建物を有効活用してほしい。
- ・電車で遊びに来れるような施設があったらいいと思う。

問4 中心市街地を活性化するためには、何を優先すべきだと考えますか。

<簡易抜粋>

- ・SLをアピールしたり、歩行者天国をもう少し増やしたりしたらどうか。
- ・SNS等の情報発信。駐車場の確保。空き店舗（家）のリノベーション。伊香保温泉等観光産業との連携。
- ・若い人（免許を取れない・取っていない、公共交通に頼らざるを得ない）人たちが中心市街地で遊べるような店舗・施設があると良いのではないのでしょうか。先日茨城県の石岡市に行きましたが、駅前にスケボーパークが整備されていたのが印象的でした。
- ・街中にはいくつもの公園がありますが、中にはほとんど使われていない公園もあります。点在する公園を集約して駐車場を併設。そこに商業施設をつくっていくことで人が集まりやすくなり活性化につながると思う。
- ・そもそも中心市街地を石原、行幸田、半田、中村、有馬あたりを検討できないのか。高崎渋川バイパスが開通し、車の便がよくなり今後もこの地域へ人が集まることが予想できる。
- ・敷島駅前の活性化を図っている「えんがわ」のような箇所を設ける。高校生・通行人が気軽に茶饮のみできるように整備する。
- ・広場を作り、イベントがいつもそこで開かれていて、今何をしているか発信していて、空いていれば誰でも簡単に利用可能な場所があれば、キッチンカーとかテントの店がやってこないですか。
- ・お店、駐車場の紹介のチラシ、サイトがあると嬉しい。
- ・核となる施設を整備する。祭り会館及び地元の食材を生かした食事の提供。地元のまんじゅうを集約したまんじゅう横丁。創作こけしの販売と体験など。

問5 中心市街地の活性化への行政の関わり方として、最も当てはまると思うものを選んでください。

- ①行政が率先して取り組むことが必要 (6人・15.8%)
- ②商業者や地元住民が率先して取り組み、行政は支援を行うことが必要 (6人・15.8%)
- ③市民、商業者、行政が一体となって協働で取り組むことが必要 (24人・63.2%)
- ④商業者や地元住民等に任せて、行政はあまり関与する必要はない (1人・2.6%)
- ⑤その他 (1人・2.6%)

<その他意見>

・市議たちが活性化に向けてまとまる必要がある

「③市民、商業者、行政が一体となって協働で取り組むことが必要」は、全ての世代から選択される回答となりました。

年齢別回答状況

単位:人

〇は人数	①	②	③	④	⑤	合計
20歳代(4)	1	1	2			4
30歳代(8)	1	2	4		1	8
40歳代(4)	1		3			4
50歳代(2)			2			2
60歳代(9)			8	1		9
70歳代(8)	2	2	4			8
80歳代(3)	1	1	1			3
合計(38)	6	6	24	1	1	

問6 中心市街地を活性化するために、あなたが貢献できることはありますか。最も当てはまると思うものを選んでください。

- ①中心市街地へ訪れる機会を増やす (8人・21.1%)
- ②歴史資源の活用に参画する (2人・5.3%)
- ③にぎわい創出イベントに参加する (3人・7.9%)
- ④公園・広場の整備に参画する (2人・5.3%)
- ⑤地域と連携した取り組みに参画する (7人・18.4%)
- ⑥中心市街地で活動する組織の設立、または組織に参画する (1人・2.6%)
- ⑦SNS等で中心市街地の魅力を発信する (4人・10.5%)
- ⑧良いと思えるなら何でも協力する (9人・23.7%)
- ⑨行政に任せておけばよい (0人)
- ⑩関心がない (3人・7.9%)
- ⑪その他 (0人)

年齢別回答状況

単位：人

()は人数	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	合計
20 歳代(4)	1			1			1	1				4
30 歳代(8)					1			6		1		8
40 歳代(4)					2		1			1		4
50 歳代(2)	1					1						2
60 歳代(9)	2	1	1	1	1		1	1		1		9
70 歳代(8)	3	1	2		1		1	1				9
80 歳代(3)	1				2							3
合計(38)	8	2	3	2	7	1	4	9	0	3	0	

※70 歳代で複数回答あり

回答数が最も多い「⑧良いと思えるなら何でも協力する」は、30 歳代の回答割合が多く、4つの世代区分から選択されています。次いで回答数が多い「①中心市街地へ訪れる機会を増やす」や「⑤地域と連携した取り組みに参画する」は、それぞれ5つの世代区分から選択されており、より多くの世代が選択した回答となっています。

問7 中心市街地の将来のあり方、整備の進め方に意見があれば回答してください。

＜簡易抜粋＞

- ・第2次プランについて、市民への周知・PRをされているとは思いますが、第1次プランの検証・評価を含め、その計画内容・実施結果・成果・効果・課題等に対する対策・改善などが我々市民に十分に伝わっていないように感じられる。「10のプロジェクト」の取組を終えた後は、中心市街地が「賑わいを取り戻し、住みたい・訪れたい街になるんだ」という希望と夢が持てるように活性化プランの整備（取組）を進めて欲しい。
- ・車を主な移動手段にしている人たちは、どうしても駅前や市街に足が向きづらいと思うので、いっそ運転ができない中高生をメインターゲットにして、学校帰りや休みの日に市から出なくても遊べるような街にしたら良いのではないのでしょうか。
- ・中心市街地はこうあるべきという考えをなくした上で、検討した方が良いと思います。表面的な面だけでなく、住んでる人の意見を実際に聞いて参考にできると良いと思いました。
- ・駅前が閑散としていて寂しいなといつも感じています。イベントだけではなく、常時地元の人や観光客も両方が利用しやすい商業施設やそれに隣接された公園や広場があるのがいいと思います。
- ・今後の区画整備を含めコンセプトを明確にする。また、災害に強いまちづくりのモデルとなるような整備が望ましい。

2. 渋川市地域福祉センターについて

市は、老人福祉の増進を図ることなどを目的として老人福祉センターを設置しています。「①渋川地域福祉センター」、「②小野上地域福祉センター」、「③地域福祉センターこもちの湯」の3施設があり、高齢者以外の人でも気軽に利用できるよう、施設名を地域福祉センターに変更しています。

それぞれの施設に入浴施設を設け、市民の憩いの場として、健康増進や教養の向上など地域福祉の向上を図り、高齢者の明るい生活を支援しています。

これらの老人福祉センターの運営については、施設の老朽化や物価高騰による施設運営費用の上昇などの課題があります。特に、「渋川地域福祉センター」は、外部有識者で組織された「渋川市社会福祉施設等のあり方検討委員会」において、「廃止の検討をすべき」とされており、各施設の今後のあり方の検討が急務となっています。

<施設概要>

	①渋川地域福祉センター	②小野上地域福祉センター	③地域福祉センターこもちの湯
住所	渋川 3890-1	小野子 9-1	吹屋 658-20
建築年度	昭和 44 年	平成 11 年	平成 4 年
構造	鉄筋コンクリート造平屋	鉄骨鉄筋コンクリート造平屋	鉄筋コンクリート造平屋

<各施設でできること>

①渋川地域福祉センター	②小野上地域福祉センター	③地域福祉センターこもちの湯
入浴		入浴（温泉）
健康相談、マッサージ機または健康器具の利用		
カラオケ		/
	地元特産品などの購入	
卓球、囲碁・将棋、グランドゴルフなどのサークル活動		

<現在の施設利用料>

- 70歳以上の人、障害者、未就学児＝無料
- 65歳以上70歳未満の人、小中学生＝100円
- 市外の人＝300円
- それ以外の人＝200円

問8 地域福祉センターを知っていましたか。

- ①知っていた (22人・57.9%)
- ②知らなかった (16人・42.1%)

20・40歳代では、「①知っていた」と「②知らなかった」の回答数が半數ずつとなりました。30・50歳代では「②知らなかった」と回答した人が多い結果となりましたが、60歳代以上では、「①知っていた」の回答が多い結果となりました。

年齢別回答状況 単位:人

()は人数	①	②	合計
20歳代(4)	2	2	4
30歳代(8)	3	5	8
40歳代(4)	2	2	4
50歳代(2)		2	2
60歳代(9)	8	1	9
70歳代(8)	5	3	8
80歳代(3)	2	1	3
合計(38)	22	16	

問9 地域福祉センターを現在利用していますか。または、将来利用したいですか。

- ①現在利用している (または将来利用したい) (11人・28.9%)
- ②現在利用していない (または将来利用したくない) (21人・55.3%)
- ③わからない (6人・15.8%)

「②現在利用していない (または将来利用したくない)。」は、全ての世代から選択される回答となりました。「③わからない」と回答した人を除き、30・60・80歳代では、半數以上が「①現在利用している (または将来利用したい)。」と回答しました。

年齢別回答状況 単位:人

()は人数	①	②	③	合計
20歳代(4)		4		4
30歳代(8)	3	3	2	8
40歳代(4)		4		4
50歳代(2)		2		2
60歳代(9)	4	4	1	9
70歳代(8)	2	3	3	8
80歳代(3)	2	1		3
合計(38)	11	21	6	

問 10 現在、利用者全体の 9 割以上が無料で施設を利用しています。これを踏まえ、利用料金に関する考えで当てはまるものを全て選んでください。

- ①「70 歳以上の人、障害者、未就学児＝無料」からも料金徴収した方がよい
(9 人・23.7%)
- ②「65 歳以上 70 歳未満の人、小中学生＝100 円」の料金改定をした方がよい
(10 人・26.3%)
- ③「市外の人＝300 円」の料金改定をした方がよい (10 人・26.3%)
- ④「それ以外の人＝200 円」の料金改定をした方がよい (7 人・18.4%)
- ⑤特になし (17 人・44.7%)

年齢別回答状況

単位：人

○は人数	①	②	③	④	⑤	合計
20 歳代(4)	2	2	1		2	7
30 歳代(8)	1	2			5	8
40 歳代(4)	1	1	1	2	3	8
50 歳代(2)	1		1	1		3
60 歳代(9)		2	4	2	3	11
70 歳代(8)	2	3	3	2	3	13
80 歳代(3)	2				1	3
合計(38)	9	10	10	7	17	

2 番目に回答数の多い「②「65 歳以上 70 歳未満の人、小中学生＝100 円」の料金改定をした方がよい。」及び「③「市外の人＝300 円」の料金改定をした方がよい。」が、5つの世代区分から選択されているのに対して、4 番目に回答数の多い「①「70 歳以上の人、障害者、未就学児＝無料」からも料金徴収した方がよい。」は、最も回答数の多い「⑤特になし」と同様に、1つの世代区分を除く 6つの世代から選択される結果となりました。

問 11 「問 10」の回答の理由や具体的な考えを教えてください。

<簡易抜粋>

- ・老朽化や運営費用上昇への対応、さらなるサービス向上を目指し、魅力ある施設にする為には利用料金改定（アップ）が必要。
- ・利用者の方と色々な話をしますが、地域の交流であったり会話の場であったり、高齢化社会では重要な役割を担っていると思います。75歳以上を無料としてもいいかと思えます。
- ・生活保護や非課税世帯でも安く入れたらいいのでは。
- ・高齢者の健康寿命を延ばすことが介護医療費の負担減に繋がると思うので、廃止して居場所がなくなるより存続して高齢者の居場所づくりを継続していくのも、元気な高齢者を増やすために必要なのではないかと思う。
- ・利用料金は、全ての入場者から徴収した方がよい。
- ・料金の値上げや有料問題は難しいです。利用者が減少するのではないか。
- ・市民ファーストとして、市外の方はもう少し高めに設定し、市民もプラス 100円位にする。
- ・特に料金の改定は必要ないと思う。(利用すれば飲食などで貢献してもらえる)

問 12 「廃止を検討すべき」とされている渋川地域福祉センターについての考えで当てはまるものを教えてください。

- ①廃止すべき (11人・28.9%)
- ②継続すべき (16人・42.1%)
- ③その他 (11人・28.9%)

<その他意見>

- ・どのぐらいの利用者がいて、地域の役に立っているのかわからないため判断がつかない。
- ・必要としている利用者があるのであれば無理のない範囲内で継続すべき。
- ・利用したことがないため、どちらとも言えない。

最も回答の多い「②継続すべき」が5つの世代区分から選択されているのに対して、「①廃止すべき」は6つの世代区分から選択される結果となりました。回答者の居住地区別の回答状況では、「②継続すべき」のみ、全地区から選択される結果となりました。

年齢別回答状況				単位:人
○は人数	①	②	③	合計
20歳代(4)	2	2		4
30歳代(8)	1	3	4	8
40歳代(4)	1		3	4
50歳代(2)			2	2
60歳代(9)	3	5	1	9
70歳代(8)	3	4	1	8
80歳代(3)	1	2		3
合計(38)	11	16	11	

問 13 「問 12」の回答の理由を教えてください。

＜簡易抜粋＞

- ・人口減少に伴い縮小が必然と考える。
- ・高齢者だけでなく「市民の憩いの場」としての存在価値を再構築させ継続すべき。外部有識者の討委員会で出された「廃止の検討をすべき」という結果が出たからといって「廃止ありき」の検討だけを進めるのではなく、老朽化や運営費用の課題を問題視したうえで、どうしたら現状の施設を存続させ「憩いの場」として高齢者や市民の明るい生活を支援する施設」にできるか、という前向きな検討をすべきではないか。
- ・利用者の方は本当に楽しみにしています。会話の場所を残して欲しいです。からだと心のケアが出来る場所として残してもらいたい。
- ・施設の場所を見ると車での移動が前提になっている。高齢者の多い団地から遠い。
- ・築年数を考えても老朽化が懸念されるため。利用者には他施設の推薦などできないものか。
- ・やっていることは良いと思うし、子どもにとっての児童館とかと意味合いが同じだと思ったから。

問 14 地域福祉センターは、高齢者の居場所の 1 つですが、高齢化社会が進む中で、「高齢者の居場所」について意見や考えがあれば教えてください。

＜簡易抜粋＞

- ・地域の自治会館を有効利用をしていただくようにした方が良いと思います。
- ・高齢化が進めば、今まで以上に「一人暮らし」「ひきこもり」「うつ」の方々が増え孤立する高齢者も増加する。その「孤立」を防ぐために、自宅以外でも「気楽に・自由に」立ち寄ることができる「居心地のよい居場所」として地域福祉センターを提供し、高齢者の社会参加や介護予防等をサポートすることは非常に重要なことだと考える。
- ・日常的に外の空気を吸って他人と会話することが、結果的に健康寿命を延ばして医療費を抑えることにもつながるのではないのでしょうか。特に渋川老人センターはバス停からほど近く、免許を返納された方や運転をされない方が気軽に行ける貴重な場所です。
- ・自分で動けるうちはこうした施設があることで人との交流や健康の増進につながると思われる。
- ・高齢者が行きたい、やりたい場所は、街中のショッピング、スポーツジム、映画、旅行等々いっぱいありますよ。無料の公共施設を作らなくてもいいと思います。必要なのは、そこへ行くための移動手段です。自由に低料金で行けたら元気で明るい高齢者になります。
- ・地域福祉センターを廃止する代わりに公民館に「高齢者の居場所」を設けるように改良。また、地域にある住民センターに高齢者の居場所を設けたところには助成する。
- ・高齢者、高齢者と言いますがサポートできる情報が的確に伝わっていない。官・民一体での訪問含め、何をしてほしいか直接面談が必要。